

新型コロナウイルス
変異株の猛威で、3回
目の緊急事態宣言が発
令。効果的な策を集中
して実施して、ウイ
ルスの勢いを抑え込み

フリーじ『風』 （現場）からの

たいと酒類やカラオケを提供する飲食店や規模の大きな施設が休業した。

大都市圏からの移動自粛での入り込みも気になり、新緑や山桜の見学も兼ねて、村内をドライブする。だがキャンプブームなんか屋外で多くの食事風景を見かけた。里では、咲き誇る花を求めて小组赛が散策する姿。福島民友新聞の編集日記に伊達市月館町の観光施設・つづきた花工房の「小人探しワーキング」の紹介記事が心に残る。地元の里山散策路で、森の妖精に見立てた人形を探

し出す「ウォーキング」トだ。時期によって多彩な花を楽しみ、歩く事で地域の魅力も体験させられる。自粛が求められる中、身近な観光資源に目を向けさせ、人混みに注意しながらの観光は、全国名

**里山資源
「夢と物語」**

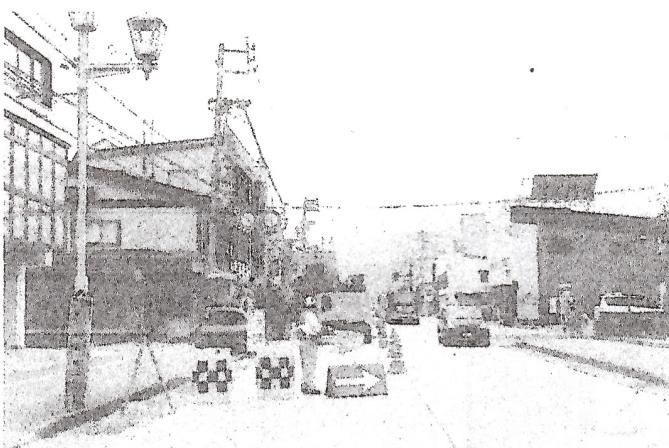
地で企画が盛りだくさんになるに違いない。

きっかけは、小泉八雲を名乗る前のラフカディオ・ハーン。1890年の来日直後、訪問先で目にした梅や桜の花に「美の奇跡」だと驚きを伝えたこと

里山資源の活用には「夢と物語」が必要だ

だ。そして春の風景に見せられ日本文化を探求、樹木には魂があると信じ、木を大切に育てる日本人の姿に優しさを感じ、幼い頃に親しあんだイギリス民話の妖精のイメージが重なり、日本の印象を「昔の活用には必要だ」と語った。

は通用しない事は誰もが知る事実だ。脳科学者茂木健一郎さんの講論「最初のペンギン」では、ペンギンの群れの中には、シャチなど天敵が待ち受ける海へと真っ先に飛び込む羽を「英國圏」では、リスクを恐れず新しいことにチャレンジする勇敢者を「ファーストペンギン」と呼んで讀むそうだ。吉野弘さんとの詩「止・戯歌(されうた)」で「歩」は「止」と「今」からできてしまう。歩く動作の中に「止まる」動作がほんの「少」含まれています。そして「正」は「一」と「止」から



国道を交通規制して実施する無電柱化工事。完成後の内容を知らせる掲示版設置を求める声が多い

でござります。コロナ禍だからこそ、誰もが多くの情報と向き合って、新たな発想で地域の活性化のために知恵を出す事ができる絶好的な機会に挑戦してほしいものです。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)